

【議事録】第2回 岡崎活性化本部乙川リバーフロント推進部会

日 時：平成26年8月18日（水）14時00分～16時25分
会 場：市役所西庁舎7階701号室

1 開 会

岡崎活性化本部より開会のあいさつ。

2 部会長あいさつ

盛り沢山の議題の内容であるが、忌憚のない意見をいただきたい。

3 議 事

(1) デザイン方針について

- ・ 岡崎市活性化本部より、「デザイン方針案」について説明を行った。
- ・ デザイン方針は、今後の設計等に向けた岡崎活性化本部から岡崎市への提案という位置付けである。
- ・ 最終的には10月の部会で再度議題にあげ、確定させたい。それまでに意見等があれば活性化本部まで連絡をいただきたい。
- ・ 技術的課題がある可能性もあり、必ずしもデザイン方針のとおりを実現されるかは確約されるものではないため、予めご了承ください。

〔意見交換〕

事務局長

- ・ 10月に向けてデザイン方針における意見をいただき、岡崎活性化本部でまとめていく。

部会長

- ・ 「継続性」という成長し続けるための概念をコンセプトに加えて欲しい。また、環境とエコの概念も加え、経済的に考慮することも加えて欲しい。

副部会長

- ・ 乙川リバーフロント地区整備が目指すものを明確にし、目的を加味したデザインコンセプトとして欲しい。

事務局長

- ・ 乙川リバーフロント地区整備基本計画策定業務の特記仕様書に業務の目的が記載されている。岡崎市と整理し提示する。

(2) 中央緑道に接続する新入道橋のデザインについて

- ・ 岡崎市より、新入道橋のイメージパース図について下記のとおり説明を行った。
- ・ 完成形ではないが、現状この形で考えている。
- ・ 利活用についてはまだ議論が十分ではない。説明は橋ができるという観点で行い、利活

用については今後、議論を進めていきたい。

- ・（新入道橋イメージパース）シンプルな形だが、橋のデザインとして考えている。
- ・（中央緑道イメージパース）スペースを東側に寄せて、幅広い空間を形成する提案。歩道幅は16mとなる。合わせて橋の幅も16mで考えている。正確には高欄等を含めて構造幅は17mとなる。
- ・ 新入道橋南側から橋の16m幅の空間を渡って、中央緑道の16m幅の歩道空間が籠田公園までつながる。
- ・ デザインについては第1回の推進部会から、床は木張りとする。また提案としてツタ、芝等をいただいたが、ツタや芝に関しては維持管理（誰がどのように等）が難しく課題となる。
- ・ 橋脚は3本、石張り風のイメージとして考えている。
- ・ 中央緑道については、歩車道の境界には緑が必要だと考えている。民地側の植樹については使い勝手の問題があるため今後、議論を進めて検討を行う。

〔意見交換〕

部会長

- ・ 橋脚の石張りは岡崎のさび御影石などがよいと思う。また、個人的な見解だが、木橋のブラウンがもう少し濃い方がよいと思う。

岡崎市

- ・ 橋脚については化粧型枠を用いることを考えている。木橋の色に関しては、防腐処理によって木材の色が変わることが考えられる。可能かどうかを含めて今後検討を行う。

部会員

- ・（中央緑道）使用する側からは、シンプルな方がよいと思う。先ほどの通行の邪魔になるような植樹は当面は置かないことについては賛成である。緑に関しては必要性があると思う。壁面緑化やツタは可能だと思う。

岡崎市

- ・ 壁面緑化を行うのは民間の方の建物か。

部会員

- ・ 民間の方に協力を呼びかけ、市民の方に出来るだけ参加していただきたい。主要企業も点在しているため、この計画に巻き込んでいきたい。

市長あいさつ

- ・ 岡崎市では、平成26年2月12日に岡崎活性化本部より提出された基本方針策定のための提言書を受けて、基本方針を定めた。
- ・ 来年度予算から国の交付金をいただくため、基本方針に沿って計画を進めている。
- ・ 入道橋や四天王石像等の個々の事業についても、できる限り見える形で示していきたい。
- ・ 推進部会で熱心に議論いただいている、新入道橋・中央緑道については、新入道橋～中央緑道～籠田公園までの歩行者空間が創出されることを強調している。
- ・ 新しい岡崎の顔となる空間の利活用については、推進部会においても引き続き検討していただきたい。
- ・ 新入道橋は特定の目的だけの使用ではなく、多様な市民の皆さんの要望に応えられ、多岐にわたり利活用できるような方向性としていきたい。

- ・ オランダアムステルダム視察の際に、歴史的な景観を活用したまちづくりに触れた。「古いものを大事にすることは大切であるが、昔と同じ形を再現することばかりが大切ではない。新しい価値観を加えることも大切。新しい価値観としての判断基準は、街そのもののステータスが向上するものであれば認定する。」という話があった。街づくりを行う中で、一つ参考にすべき点だと考える。
- ・ リバーフロント推進部会の皆様には、今後とも熱心な議論を行っていただき、さらに良い街づくりに御協力いただきたい。

部会長

- ・ アムステルダムでの話はとても大事だと考える。リバーフロント推進部会でも展開していければと思う。

部会員

- ・ 歴史性を大切にしながらも、次世代の価値観を加えることで、歴史の積み重ねが新たな魅力を創出すると考える。

部会員

- ・ 日常、非日常で考えれば、花壇の設置が考えられる。イベント時等の非日常時には撤去可能なものが良いと思う。
- ・ 市長がよく言う新人道橋に木材を使用する例として「式年遷宮」があげられる。市民の行事として定着すれば、大事にされる橋になると思う。

副部会長

- ・ 新人道橋は通行だけでなく、橋上にとどまれる空間があることが重要なポイントだと思う。座れる場所や写真を撮る場所等があると良いと思う。
- ・ 他の橋の事例では、自転車通行帯に段差を設け歩行者と分離する構造や、たたずむ場所に階段状の段差を付ける事で分離を図る構造などがあり、デザインで対応できる部分はあると思う。

岡崎市

- ・ 段差などを設けると、広い幅員を活かした自由な使い方に制限がでると考える。プランターの設置などで分離は可能だと思う。また、日常の使用においては、橋梁幅が16mと広いため、分離する必要はないと考えている。

部会員

- ・ 岡崎市の言うとおりの幅16mがあれば日常的な分離については問題ないと思う。イベント時については先ほどの提案のようなもので工夫していければと考える。
- ・ 人が多く来る場所としたいので、それを可能とするストーリー付けが必要であり発信していく方法を考えるのが重要である。

事務局長

- ・ 階段状のような固定的なものでもなく、ベンチ等の利活用の方法で解決できると思う。

部会員

- ・ 木造とはどの程度の耐久性か。

岡崎市

- ・ 橋は完全な木造ではなく鉄とコンクリートの構造であり、床材として木を張る考えである。市長が言われるように20年程度での張替えを想定している。

副部長

- ・ 張替えを行事とするのであれば、1本の木を奉納のように寄付を受けて名前を入れるなど市民が関われる形が良いと思う。

部会員

- ・ 橋を渡った先に何があるのかという雰囲気をつくることが重要。行き着く先は籠田公園だが、周りについてもこうして行こうというものがないと、橋を架けても普通に使って終わりになると思う。橋を渡った先に観光的なものがない。その辺を含めた整備はどうか。

事務局長

- ・ 民間と協議しながら、民間の活動として見所を一つずつつくっていければと考えている。

岡崎市

- ・ 目的としては、橋を渡って中央緑道を通り、中心市街地に人を導く回遊性を作るツールとしていくことである。

部会員

- ・ 人が集まれば橋の価値も高まる。人を集めるために康生地区に人を呼ぶしかけを用意しなければならない。市民会館や、展示会場で催しものを行うことなどが必要である。

事務局長

- ・ 市民会館は20年間延命措置で綺麗になる。今後、公共投資と民間投資と両方必要になる。民間はテナント誘致等が必要。ハードの整備費の1割程度がソフトの事業費として継続的に必要だと考える。

副部長

- ・ りぶらに人が集まっても松坂屋が倒産してしまうというように、近隣に集客施設があってもそこから人は移動しない。行政の整備だけでどうにかなる問題でもなく、民間だけでも限界がある。双方が努力する必要がある。
- ・ 今は乙川リバーフロント地区整備についての議論に時間を割かざるを得ない状況ではあるが、そこから漏れるような話も大事にしていきたい。

部会員

- ・ 民間が何かをやるには資金も必要である。
- ・ 康生地区は昔から様々な人が整備してきたが、今回を本当に最後にしてほしい。これまで、話の度に店舗は振り回されてきた。
- ・ 外から来た人たちには、康生地区の良い所など、細々とした魅力を伝えて行くことが大事だと思う。
- ・ 「リバーフロント地区は江戸時代にしてしまう！」などの市長からのトップダウンも場合によっては必要なことだと思う。

部会員

- ・ 人というのは本当になかなか動かないが、最近、江戸時代の食べ物を再現した新商品を作りたいという人もいて、希望が持てる。そのような人を増やしていけば、観光地化も夢ではない。

部長

- ・ 市会議員の先生方が来られている。これまでの議論を聞いて、意見をいただければと思う。

市会議員

- ・ リバーフロント地区整備計画自体は反対ではないが、人道橋に関しては本当に必要かという質問を議会で行った立場で見えていた。必要性があるものをつくるのが基本だと思う。市民参加で事業を進めたければ、行政が市民参加の土台を作った上で、進めていく必要があると思う。
- ・ ハードだけをつくってソフトが伴わなければうまくいかないと思う。橋だけを観光のメインとするのではなく、岡崎に眠っている資産を活用しながら、子供たちが岡崎の歴史に誇りを持てるようになればと思う。

市会議員

- ・ 当初から内田市長が言われている岡崎市における観光支援を行いたいと言う事は、本当に基本だと思う。
- ・ 社寺仏閣の周辺の整備が進んでいない中で、乙川リバーフロントの整備を行うということは大切であり、官民一体の事業として期待している。市民に対してもインパクトがあり、市外または海外から観光客を呼べる計画にして欲しい。
- ・ 景観も併せて取り組むべきであり、殿橋から見る岡崎城、明代橋から見る岡崎城はまだまだ十分ではないが、50年先を見てどんな岡崎市にしたいかということを考えて取り組んでほしいと考える。

部会員

- ・ 賑わいは、人が一定時間とどまらないと創出されない。人が通るだけでは賑わいではないため、座る場所やたたずめる場所が重用だと認識している。

部会長

- ・ その意見に賛同する。日常、非日常ではなく、いつ行っても楽しいしたたずめる橋となって欲しい。

事務局長

- ・ 日常的に楽しめるということは、デザインや景観が感動のレベルまでいかないと人は来ないと思う。そこまでのデザイン力や整備力が必要となる。
- ・ 非日常として、橋から中央緑道までを埋めるには100店舗を集める必要がある。そこまでの民間活力がないと到達できない。今後、皆さんの協力で行って行ければと考えている。

部会長

- ・ そのためには規制開放等の自由な使い方が容認されればと思う。

岡崎市

- ・ この橋は公園施設としてつくる。そのため交通の規制は受けない。それを十分活かす利活用については今後、議論が必要。

副部会長

- ・ 一目みて魅力的なものをつくる必要がある。橋を歩くのが目的ではなく、橋を歩くのが楽しい状況をつくって行ければと考える。

岡崎市

- ・ スペースが出来るという話と、どう活用するかについても同時平行で進めていくことが重要である。今回は私からどのようなスペースができるかという話をさせていただいたので、どう活用するかについては、是非今後も議論していただきたい。

(3) 殿橋下流部、伊賀川下流部における架橋について

- ・ 岡崎市より、殿橋下流部、伊賀川下流部における架橋について市の状況説明を行った。また、竹千代橋について現状の説明を行った。

〔意見交換〕

事務局長

- ・ ニューグランド前は花火の栈敷などの利用から設置は厳しい。また、藤棚と岡崎公園の神橋付近に関しては、花火の筒場であることや、周辺の広い空間を活かす点からも適切でないと考えられる。伊賀川合流部に関しては高さの取り合いに問題がある。
- ・ 潜水橋についてはどのような状態か。

岡崎市

- ・ 潜水橋については、別途愛知県と調整を行うが、そもそも河川管理上障害物であるため、厳しい状況である。

(4) 殿橋・明代橋のライトアップについて

- ・ 部会員より、殿橋・明代橋のライトアップイメージについて説明を行った。
- ・ 殿橋ライトアップの色は周辺と同様に、暖かい白熱色とする。
- ・ 明代橋も同様に白熱色とする。欄干の部分に水平ラインを入れることを提案していたが、配線等の問題で欄干には設置できないため、梁の部分に水平ラインを入れている。もともと Y 字照明のため水平ラインは出ると思うが、さらにもう 1 箇所照明を加え強調するか、殿橋と同様とするかは議論が必要だと考えている。
- ・ 事務局長より、殿橋の照明実験について説明を行った。

〔意見交換〕

部会長

- ・ 基本的に照明計画は「安心・安全」、「景観上の魅力の向上」、「環境・エコ対応」の 3 つを組み合わせたいと考えている。

事務局長

- ・ 環境面については、発熱における自然に対する影響を考える必要がある。また、漁協からは、赤色は鮎の遡上に影響があるということで、春には止めて欲しいとの話があり、今後、調整して行ければと思う。

部会員

- ・ 夜間における散歩、ジョギングに対して利用者が使いやすいコース等も考慮した上で、照明計画を反映していただきたい。

事務局長

- ・ 高水敷に設置する照明に関して、洪水時は約 4m の水位があるため、完全防水でこれに対応できる器具は無い状況である。安心してジョギングするような照度を確保するのは難しい。

部会員

- ・ サンアントニオでは照明を木に吊るすなどの対応を行っている。十分でなくても良いが方向性としては考慮して欲しい。

岡崎市

- ・ 洪水時は4mの水位で泥水が流れる。通常の照明では1回の洪水で壊れてしまう。堤防道路上から照らす考えもある。距離があるため、どれだけの照度を確保する必要があるのか等を検討する必要がある。また、蓄光石を検討しているが期待に沿える照度があるかは分からない。

部会員

- ・ 堤防道路は照度が確保できるのか。(岡崎市：堤防道路の照度の確保は可能。) また、高水敷は能力や予算に応じたものしかできないと思う。

部会員

- ・ ジョギングする人は近所を走っていただくとして、デートをしたい時の照明が必要。高い照度がなくても、ある程度の顔が少し分かる照度で「デートのまち岡崎」ということでも良いと思う。

事務局長

- ・ 今後、花火がきれいに見えるなども含めたゾーニングが必要かと思われる。

部会員

- ・ 車で橋を通る際の明るさの確保は必要であり、考慮していただきたい。

岡崎市

- ・ 道路照明については必要な照度が決まっているため、それに準じた検討を行う。人道橋は車を通さないため、対象外となる。

(5) 観光ホスピタリティー～おもてなしのあり方について～

- ・ 事務局長より、観光ホスピタリティーについて説明を行った。
- ・ 岡崎市より、おもてなしについて説明を行った。

〔意見交換〕

部会長

- ・ 市議会議員の方をはじめ、一般の方も多く来られているので意見をいただきたい。

傍聴者

- ・ 一つ一つの内容については良く考えられていると思うが、リバーフロント計画が目指すものがよく分からない。相手に届かないと自己満足に終わってしまう。知ってもらうこと、興味を持ってもらうことが大事だと思う。住んでいる所、行っていることに愛着を持っていただくことがリバーフロント計画なのかと思う。最初に何故やるのか、本当に必要なかを考えていこうと思った。

事務局長

- ・ リバーフロント計画が目指すところとして、昨年の提言書の中には「将来的に市民が憩い楽しめる場所として、また岡崎市の目指す観光産業都市の拠点となるように整備する。何度でも訪れたい観光拠点とする。」との記載をした。
- ・ 主要な対象範囲については中部地区圏内としたい。
- ・ シビックプライドとして市民の誇りとなる場所とする。
- ・ 多角的に様々なメディアを使ってPRする必要がある。

リバーフロント研究所

- ・ 来ていただいた方が楽しんでいるかという点と難しい。食べる場所がなく、おもてなしがない。お土産（甘味）と飲食店の開発を行って欲しい。

部会員

- ・ そのとおりが、売れないとつukれない。稼げる環境をどのようにつくっていかけるかが大事である。

岡崎市による草刈状況について

- ・ 岡崎市より、岡崎市による乙川の草刈状況についての説明を行った。

事務局長

- ・ 水面についても清掃していければと考えている。協力をお願いしたい。

副部長

- ・ これから市民とどのように接点を持つかについて協力していきたい。知らないことが致命的、プロモーション戦略による接点作りを手伝っていきたい。

部長

- ・ 第2回の推進部会を向かえて、もう一度、本音を言っておきたい。多数の議論、提案ができたが、それを行政側がどう取り込んで行くかということが部会の意義につながり、重要だと思う。そのことをしっかり認識して本当に意義のある部会にしていければと思う。

(6) その他

- ・ 岡崎市より社会資本整備総合交付金申請のスケジュールについて説明を行った。
- ・ 天の川プロジェクトについては、平成27年12月26日に家康公薨去400周年の最終イベントとして行う。

部長

- ・ 記者発表による市民の反応についてはどうフォローするのか。

岡崎市

- ・ 一般の市民の方に岡崎市が考えていることを分かりやすく説明したい。市民の意見については可能な限り対応はしたい。

(7) 事務連絡

下記のとおり今後の活動について連絡を行った。

『第3回 岡崎活性化本部 乙川リバーフロント推進部会』

日時：平成26年10月22日（水）14：00～16：00

会場：岡崎市福社会館 大ホール

テーマについては別途、連絡させていただく。

4 閉会

岡崎活性化本部より閉会宣言。

以上